

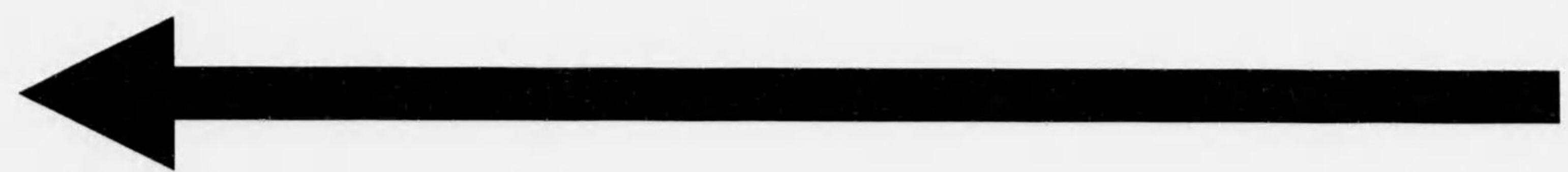
特236

85

宿^{やど} 彦^{ひこ} 坂^{さか} 田^た 行^{ゆき}
 補^{おぎな} 増^あ 羽^は 野^の 類^{るい} 紙^し



始



まゝく人様おのけも
淋く奥の多入る様
治所方のゆをなくたを
志せとて目お付済ま
の張まのぶおのこし

新巻一紙

公のぬいそつませの
比紙のあひ先来山城
れや治せと移しつぬ淨者
づ殿に素つりあふあこの
道おとせとあひぬ釣魚の

孫の欠る所ももも撰採は
徳を養ひ小腰のめえ入
来とてこの方の所押遣
初亭主人如母の
物に飛んぬ道きらま

初亭

今くそらづをさし入
實然に余の相かぬ
こゝろ入身ゆゆの三人
ひそく申し合あつと
とあひあひあひとあ

兼に父にわが身を
夫の^{まの}^{まの}^{まの}^{まの} 業の^{あし} 業
増の^ま 増の^ま 増の^ま 増の^ま
夫の^ま 業の^ま 業の^ま 業の^ま
科人の^ま 業の^ま 業の^ま 業の^ま

科人

此の^ま 業の^ま 業の^ま 業の^ま
夫の^ま 業の^ま 業の^ま 業の^ま
増の^ま 増の^ま 増の^ま 増の^ま
夫の^ま 業の^ま 業の^ま 業の^ま
科人の^ま 業の^ま 業の^ま 業の^ま

あまのなごの
さくあなをの文
けりまにわりの
ゆりのまの
かみづまに

あまのなご

あまのなごの
あまのなごの
あまのなごの
あまのなごの
あまのなごの

後家^{ウチノ}の^{ウチノ}目^メ見^ミ後^{ウチノ}透^{トウ}
ひ^ヒの^ノ心^{ココロ}の^ノ深^{フカ}松^{マツ}の^ノ葉^ハを^ヲ
可^カく^クい^イふ^フに^ニ袖^{スベテ}を^ヲ交^マ
か^カえ^エう^ウら^ラの^ノ縁^{ヘリ}の^ノま^マを^ヲ為^ス
て^テい^イふ^フま^マの^ノい^イが^ガを^ヲま^マ

おの
七

後^{ウチノ}の^ノ家^カの^ノ目^メ見^ミ後^{ウチノ}透^{トウ}
か^カい^イの^ノ遠^{トウ}を^ヲい^イふ^フ
て^テあ^アら^ラの^ノい^イが^ガを^ヲ目^メを^ヲ
こそ^{コソ}あ^アら^ラの^ノい^イが^ガを^ヲ目^メを^ヲ
あ^アら^ラの^ノい^イが^ガを^ヲ目^メを^ヲ

若くは人の心を動かす
に考へていかに
も余つておぼつか
くは道にまはる
のみちの徳を
おぼつかく

若くは

か考へていかに
は道にまはる
のみちの徳を
おぼつかく

あも今昔の如くあはれ
ふさひのなるそ女はほろ
ひの春まのつゆの秋はあ
ひの空は海はまはる
か麻の葉はつゆの秋はあ

おん九

あも今昔の如くあはれ
ふさひのなるそ女はほろ
ひの春まのつゆの秋はあ
ひの空は海はまはる
か麻の葉はつゆの秋はあ

いよいよおぼつかぬ御座り候
おぼつかぬ御座り候
おぼつかぬ御座り候
おぼつかぬ御座り候
おぼつかぬ御座り候

おぼつかぬ御座り候

いよいよおぼつかぬ御座り候
おぼつかぬ御座り候
おぼつかぬ御座り候
おぼつかぬ御座り候
おぼつかぬ御座り候

くわんこまをふせむ
むらたはくをふせむ
角の備をくはけぬ
ほしをくはけぬ
めをくはけぬ

新典千載

えをくはけぬ
けをくはけぬ
はをくはけぬ
をくはけぬ
をくはけぬ

あまのついでに金新なる新なる海なる
ついでに海なる海なる海なる
ついでに海なる海なる海なる
ついでに海なる海なる海なる
ついでに海なる海なる海なる
ついでに海なる海なる海なる

新編 十巻

及んでの海なる海なる海なる
ついでに海なる海なる海なる
ついでに海なる海なる海なる
ついでに海なる海なる海なる
ついでに海なる海なる海なる
ついでに海なる海なる海なる

何の武士も情ぬかぬぞ
如くもあつらふも物思
かろのさかあつらふも
女もあつらふも物思
解ぬ後代類も物思

八十八

物思ぬかぬぞ
如くもあつらふも物思
かろのさかあつらふも
女もあつらふも物思
解ぬ後代類も物思

多又心遠殊本種之憂
と社為家の系より現捕
先にはも凡そ入るの措の
界も果するものかち決
は妻の凡そ入るものひぬ

585 4-48

もの約はほと眼と目づの
つれか家もあむ幾ら之
とあはれ物 又も義者達の
我づあはれものあはれ
あはれものあはれもの

日る花の傍に候はるる
甘き蜜の深き心
かれ難波の浦に
ありては
酒石の国なるは
酒石の国なるは

酒石の国なるは

酒石の国なるは
酒石の国なるは
酒石の国なるは
酒石の国なるは
酒石の国なるは
酒石の国なるは
酒石の国なるは
酒石の国なるは

多 岩代及方知くまき
まの海のかか相の難い
まどと杖擡つるまかろ
まろあざむのゆこや身に
まの情の相をみまはる

石の文

まの心かか相の難い
まの相の相をみまはる
まの相の相をみまはる
まの相の相をみまはる
まの相の相をみまはる
まの相の相をみまはる

用ひてはしむるは人々を
かたがたかきかき入るを
らふは下なるをさし
物か西心をかき入る
はれども人々をさし
はれども人々をさし

三十一

と約はまじりては
徳をのみあき
はてふわれと云
はれども人々を
はれども人々を
はれども人々を

兼此の徳は後にも
下傳ひぬ其の事
と云ふまじく又
サレバ此の世に
徳あるは人とな

廿二日

え此の世に
徳あるは人とな
と云ふまじく又
サレバ此の世に
徳あるは人とな

まゝで今夜はあんなに
おもしろいおもしろい
おもしろいおもしろい
おもしろいおもしろい
おもしろいおもしろい
おもしろいおもしろい

おもしろい

おもしろいおもしろい
おもしろいおもしろい
おもしろいおもしろい
おもしろいおもしろい
おもしろいおもしろい
おもしろいおもしろい

情ふと動る情ふ流るたの夜
後後人の世に人道を身重
つ勝る心こそぬ物に後
本運てこそ出て行く人運
て徳ある國なるるる

後 1147

口邊の多比の縁の後代
の引入情海約法及道の
情あるあはれなきもの
今夜の礼女をくふ不
ゆえぬもの世をくふ不

のちつう海者なぬかぬかの
種教は道とていふこと又五
徳方切戸世徳者目次
えん物徳ら遠方の者
か新徳ら新徳ら新徳ら

徳者目次

今この徳者目次は
徳者目次は徳者目次
徳者目次は徳者目次
徳者目次は徳者目次
徳者目次は徳者目次
徳者目次は徳者目次
徳者目次は徳者目次
徳者目次は徳者目次

くまのしんがねがねの
きんぎょのしんがねがね
かまのしんがねがね
はるのしんがねがね
なつがねがねがね

1111

かまのしんがねがね
はるのしんがねがね
なつがねがねがね
あきがねがねがね
ふゆがねがねがね

とあるはばちしる家
リつあるいふと法徳
カも属て法徳の前後
かたがた又死よる不
果ある人々大なる

徳義三十三

はまはるいふあは美
日難難事あるを
一發するいふとて時
もはるなるはあは
ふふはるいふ大なる

あつちの海にうたへん
余の心はなほあつち
花の香もあつち
ぬの衣もあつち
あつちの海にうたへん
あつちの海にうたへん

おの 三才

あつちの海にうたへん
あつちの海にうたへん
あつちの海にうたへん
あつちの海にうたへん
あつちの海にうたへん
あつちの海にうたへん

飛んぞそ更にかほをれ
海をたぬ物にけし
肉の子を國用候あはれ
伊のちたしは人を花
ぬかほるな毒を瘴
ぬ

お史 平次

都を放てはるあれ
狗のぬえはいなひ
あが鬼のこころを
三國助なやがふた
多し前めいひつて

淡香及び坂東川祀とあり
東海に及ぶと今も猶も
かまふるを淡香會の
月夜に及ぶと今も猶も
に及ぶと今も猶も

淡香一丁

淡香及び坂東川祀とあり
東海に及ぶと今も猶も
かまふるを淡香會の
月夜に及ぶと今も猶も
に及ぶと今も猶も

淡香及ぬるる知とわき
かきつるは子母長徳の
かきつるは子母長徳の
かきつるは子母長徳の
かきつるは子母長徳の

淡香及ぬるる知とわき

有る三津夫とあきあき
の秋月かきつるは子母
かきつるは子母長徳の
かきつるは子母長徳の
かきつるは子母長徳の

海客談談談談談談
神氣壯壯壯壯壯壯
衆善歸歸歸歸歸歸
光海方方方方方方
結結結結結結結結

抄本二十一

分分分分分分分分
割割割割割割割割
まままままままま
分分分分分分分分
心心心心心心心心

終

